

2008. 8. 27 第41号



地域づくりコミュニケーション
— 農村振興メールマガジン —

農林水産省農村振興局



◆◇ 目次 ◇◆

【 農村振興支援情報 】

■ 美しい農村を守り育むために

◇農地・水・環境保全向上対策の取組

◇農村コミュニティの取組事例（北海道）

◇「耕作放棄地対策研究会」を開催

■ 地域の実態に応じた多様な取組

◇近畿地域ふるさとづくり研修会を開催

◇伊座利の未来を考える推進協議会

■ 報告・お知らせ

◇子ども霞ヶ関見学デーの開催結果報告

◇オーライ！ニッポン大賞審査委員会報告

◇ふるさと回帰フェア2008開催！

◇農村景観パンフレット第3弾を作成しました

■ 美しい農村を守り育むために

◇農地・水・環境保全向上対策の取組

◇集落一農場方式での環境保全型農業の展開

～滋賀県東近江市 ^{ぬかづか}糠塚町環境保全協議会～

滋賀県東近江市糠塚町は、琵琶湖の東岸平坦部に位置し、冬期は積雪もあります。地域の総戸数は51戸、農家数は28戸で、そのうち専業農家7戸（酪農6戸、洋ラン1戸）と、市内で最も専業農家率の高い集落です。

本地区は、平成11年度にほ場整備が完了し、1haを基本とする効率的な大区画ほ場の優良農業地域で協業経営方式による集落営農が行われています。

農地・水・環境保全向上対策を契機に、平成19年に糠塚町環境保全協議会（平成20年度の協定対象農用地面積は34.2ha、化学肥料及び化学合成農薬の使用量を低減する先進的取組の実施面積は19.1ha）を設立し、地域ぐるみ、集落全体で農地・農業用施設の適切な維持管理に取り組むとともに、集落景観に配慮した清掃活動、除草剤を使用しないほ場周辺除草としてグランドカバープランツの植栽などを行っており、さらに活動の幅と質の向上を目指しています。

また、農事組合法人「万葉の郷ぬかづか」を主体に、糠塚町の特徴を活かすため、集落内の酪農家の堆肥や地力増進作物のレンゲを利用した土づくりをはじめ、浅水代かきによる濁水流出防止など地域に適した技術体系を確立し、水稲はすべて滋賀県認証の環境こだわり米を栽培して「環境にやさしい米づくり」に取り組むなど、集落全体で環境にやさしい農業を実践しており、化学肥料、化学合成農薬を5割以上低減して生産された農産物は、滋賀県認証の「環境こだわり農産物」として、消費者に直接販売しています。

本地区では、米・野菜や農産物加工品（米粉パン等）の直売をはじめ、近隣消費者親子や地元の子供会と田植え、稲刈りを楽しみ、環境農業をPRするなど消費者との交流活動も積極的に展開しており、周辺地域の住民が集まる美しい村づくりを目指しています。

「万葉の郷ぬかづか」の活動状況は、次のサイトをご覧ください。

<http://www.bcap.co.jp/manyonosato/>

(農地資源課農地・水・環境保全対策室)

◇農村コミュニティの取組事例（北海道）

◇財団法人 オホーツク地域振興機構

～網走支庁管内～

オホーツク地域振興機構のあるオホーツク地域は北海道の北東部に位置し、世界自然遺産に登録された知床国立公園をはじめ、網走国立公園や流水など自然環境、地域資源の恵まれたところです。

その豊かな地域資源を活かした地場産業の製品をブランド認証し、オホーツク産品の高付加価値化、ブランド化を推進していくとともに、地域産業間の結びつきを強化し、ビジネスチャンスの拡大を図り、オホーツク地域のコミュニティの活性化を目指しています。

19年度の取組として、「オホーツクブランド形成インターネット研究会」を核として、オホーツクブランドの支援体制を確立するため、ブランド形成フォーラムやオホーツクブランドフェアの開催やオホーツクブランドのファンサイトの構築を行ってきました。

これらの取組により道内はもとより道外への販路の拡大や、ブランドフェアにおいてもオホーツクブランド認証商品の好感、安心信頼を得ています。

現在では、オホーツクブランド推進連絡協議会が設立され、異業種間での連携も生まれており、更なる生産・流通の拡大や、情報サイトによる情報提供を行い、地域外の方々との交流により地域への理解を高めるとともに定住などの促進を目指しています。

活動の詳細はこちらのHPからご覧ください。

<http://www.ohotuku.or.jp/>

(農村振興局都市農村交流課)

◇「耕作放棄地対策研究会」を開催

農村振興局では、7月31日(木)に第3回「論点整理」、8月22日(金)に第4回「中間とりまとめ骨子(案)」として耕作放棄地対策研究会を開催しました。

中間とりまとめ骨子(案)では、耕作放棄地対策の推進本格化に向けて検討すべき事項として、(1)多様な主体の参画による耕作放棄地有効利用に向けた合意形成、(2)導入作物の検討・販路の確保、(3)土地条件の整備、(4)施策の総合化の4つに整理し、事務局から説明し、意見交換を行いました。

委員からの主な意見は下記の通りです。

- ・ どうやって解消を推進していくかという部分が足りないのではないか。
- ・ 農振農用地は本来農地として使うべきものであるということをもっと書き込む必要があるのではないか。
- ・ 農地情報のシステムだけでなく、労働力供給のためのシステムも必要ではないか。
- ・ 担い手を増やしていくような短期的、中長期的な政策を組み合わせないと耕作放棄地をゼロにするということは難しいのではないか。
- ・ 国が行うべきことと地域が主体的な努力によって行うべきことが両方あって、耕作放棄地の解消、自給率の向上、農家手取りの増大が達成できるのではないか。
- ・ それぞれの取組主体の役割分担が必要ではないか。

今後、第5回現地調査、第6回「中間とりまとめ」を予定しています。

研究会の配付資料及び議事概要等については、次のサイトに掲載しています。
http://www.maff.go.jp/j/study/kousaku_houki/index.html

(農村振興局農村計画課)

■ 地域の実態に応じた多様な取組

◇近畿地域ふるさとづくり研修会を開催

農山漁村地域力発掘支援モデル事業の近畿管内の地域協議会を一同に介した「近畿地域ふるさとづくり研修会」を近畿農政局と水土里ネット兵庫との共催

により8月21日に京都市内で開催しました。

近畿地域ふるさとづくり研修会の内容は、近畿農政局長の挨拶、「地域活性化の現状と展開方向」の基調講演、多様な分野のアドバイザー6名を招き「地域活性化のための計画策定に当たってのポイント」及び「地域活性化の取組に当たっての配慮すべき点」に関するアドバイザーの提言や意見交換を実施し、数地区の現状や今後の方針についての状況報告も行われました。

また、今後の近畿管内の地域づくりの方向性を検討する材料とするため、研修会の参加者に、地域協議会のネットワーク化等に関するアンケート調査を実施しました。

(近畿農政局農村計画部農村振興課)

◇伊座利の未来を考える推進協議会

～徳島県美波町伊座利地区～

徳島県の南部、美波町の東端に位置する伊座利地区は、入り組んだ海岸線と三方を山に囲まれ、過疎・少子化・高齢化が進んでいましたが、地域住民の自

主的な漁村留学制度の導入や都市部との交流促進活動などを通じて、人口の回復や高齢化率の低下減少がみられるようになりました。

一方、地区の経済や社会を支える漁業については厳しい状況が続いています。

本地区は漁業を核に地区の経済や社会が有する自然、歴史、文化そして人といった地域資源を活用して地域を活性化させ、新たな活力となる若者の定住化

や新規住民を地域へ受け入れる体制づくりを促進するために、地域内外の多様な主体が参画し、地域全体が一つの経営体となりうる体制を構築し、地域そのもののブランド化を図るとともに、定住を促進する活動を実施しています。

本協議会は、平成18年度立ち上がる農山漁村、平成19年度の天皇杯むらづくり部門に選ばれています。

詳細は伊座利の未来を考える推進協議会のホームページをご覧ください。
<http://izari.net/>

(中国四国農政局農村計画部農村振興課)

■ 報告・お知らせ

◇子ども霞ヶ関見学デーの開催結果報告

8月20日・21日の2日間農林水産省には子ども霞ヶ関見学デーとして多くの子どもたちが来てくれました。7階講堂では各局の様々なイベントが催さ

れました。農村振興局では「ふるさと子ども夢学校」霞ヶ関教室へようこそ！ということで、水田の模型の見学や水槽を使った魚や水辺の生物の展示、子ど

も農山漁村交流プロジェクトのモデル地区である北信州みゆき野子ども交流推進協議会の上原さんを講師に招いた木のキーホルダー作り体験を行うなど、子

どもたちに楽しい思い出を作ってもらいました。

(農村振興局都市農村交流課)

◇オーライ！ニッポン大賞審査委員会報告

8月1日(土)オーライ！ニッポン大賞第1回審査委員会が開催され、第6回オーライ！ニッポン大賞の日程等が決まりました。

第6回オーライ！ニッポン大賞では、都市と農山漁村を元気にする「オーライ！ニッポン」活動を募集します。募集期間は9月1日～11月20日です。

第6回オーライ！ニッポン大賞の表彰式は平成21年3月11日(水)です。詳細はオーライ！ニッポンのHPに掲載予定です。

<http://www.ohrai.jp/>

(農村振興局都市農村交流課)

◇ふるさと回帰フェア2008開催！

グリーン・ツーリズムフェア開催協議会等の主催、農林水産省等の共催による「ふるさと回帰フェア2008」が平成20年9月19日(金)(前夜祭)、

20日(土)に東京都大手町のサンケイプラザ等で開催されます。

立松和平氏、養老孟司氏、菅原文太氏による基調講演の他、全国各地・ふるさと自慢の特産品を直販する「ニッポン全国ふるさと市場」、グリーン・ツーリ

ズムから移住・定住まで何でも相談できる「ふるさと回帰自治体相談コーナー」など、農山漁村を体験するグリーン・ツーリズムや農山漁村への移住・定住を

テーマにした企画がもりだくさんですので、ぜひご参加ください。

詳細はこちらのサイトをご覧ください。

<http://www.furusatokaiki.net/events/furusatofair2008/index.html>

(農村振興局都市農村交流課)

◇農村景観パンフレット第3弾を作成しました

昨年に引き続き、美しい農山漁村づくりの取り組みを全国的に普及させることを目的に、農村景観パンフレットの第3弾「農村景観～「農」の風景、先人

から引き継いだからこそ～」を作成しました。

このパンフレットは、農村景観を活かした農村振興のあり方について解説するとともに、美しい農村景観という地域代々受け継がれた資源を活用し、活性

化を図ろうとしている5つの地域の活動過程を、平成18年2月に結成された農村景観応援団との対話を交えて紹介しています。

皆さんの地域においても、このパンフレットをご活用の上、地域が守るべき景観を見だし、それを次の世代に引き継ぐ取組を進めてみては如何でしょ

うか。農林水産省のHPで紹介していますので是非ご覧ください。

http://www.maff.go.jp/j/nousin/soutyo/binosato/b_keikanpa/index.html

(農村計画課農村政策推進室)

◆◇ 編集後記 ◇◇

4年に1度のスポーツの祭典、北京オリンピックが8月24日に閉幕しました。

オリンピック開催期間中には、28競技302種目において、毎日熱戦が繰り広げられ、日本選手の活躍が気になる一方で、選手たちが試合の当日にどのような食事をとっているのかも気になりました。

選手達が滞在していた選手村では、ステーキ、パスタ、寿司等、国際色豊かな料理が用意されていたとのこと。

もし、読者の皆さまがオリンピック選手だった場合、試合の当日には何を食べたいと思いますか？(M)

◆◇ ご意見をお寄せ下さい ◇◇

本メールマガジンに対する皆さまの声を遠慮なくお寄せください。また、皆さまの地域での活動や取組の紹介などもお願いします。皆さまからのご質問・ご意見、地域の活動などの情報につきましては、可能なかぎり回答あるいは紹介させていただきます。

本メールマガジンに関するご質問・ご意見等については、次の農村振興局「ご意見・お問合せ窓口」のサイトから送信をお願いします。その際、様式の「テーマ」欄には“農村振興メルマガ宛”を必ず記載してください。

https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=12

農村振興メールマガジンのバックナンバーは次のサイトでご覧いただけます。

<http://www.maff.go.jp/nouson/maimagazine/index.html>

■ 編集発行

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局農村政策部農村計画課(担当) 増田

TEL:03-3502-6001 FAX:03-3501-9580
